

1 地域商社 「ロカリスト」の 活動について



(株)ロカリスト 代表取締役

稲田 貴一



1. ロカリストについて

株式会社ロカリストは、和歌山の魅力をより多くの皆様にご存知いただくために2021年1月に株式会社紀陽銀行（以下、同行）が出資（同行5%、紀陽興産株式会社95%）して設立された地域商社です。

設立と同時に同行との間で「地方創生に関する包括連携協定」を締結し、両者が協調して地域産品等の販売促進や地域の課題解決に向けた取組みを行っております。

この協定にもとづき、南海なんば駅2階中央改札口前の「なんばスクエア」を同行より賃借し、販路拡大に課題をお持ちの事業者様や和歌山県への移住者の方々が製造、生産した加工品や果物などの地域産品を販売しています。

「和歌山の魅力を発信する」ということを目的にスタートした地域商社ですが、「ゼロ」からのスタートでもあり、設立から約3年経過した現在も最善の取組みを模索しながら以下のような活動を続けております。

2. 就労支援施設とのコラボレーション

事業開始にあたっては、「果樹王国和歌山の特色を活かした活動を行う」ということが当初のコンセプトにあったため、まずは和歌山県内を隈なく周り、いろんな方からお話を聞くことからスタートしました。

産直市場や道の駅、スーパーなどに置かれている商品のラベルをもとに、加工品メーカー



店舗内観

や農家の方々を訪問し、販路拡大に際しての課題や商品の特徴、和歌山県内で収穫される果物についてなど「目から鱗」のお話を数々お伺いすることができました。

そのなかで、障がい者の方の就労支援施設において、和歌山県産のフルーツなどを原料としたジュースやゼリー、お菓子などの加工品を多数製造していることを知りました。就労支援施設では障がい者の方に職業訓練や就労機会のご提供を行っており、加工品についても大変丁寧な工程で品質に優れたものを製造されています。一方で、販路に関してはほぼ和歌山県内に限られており、販路拡大に課題をお持ちであることも判明しました。

そこで当社が施設に商品の製造を委託、できあがった商品を仕入れて「なんばスクエア」の店舗で販売させてもらうことをご提案し、現在では複数の施設で製造された多様な商品を取り扱っています。

障がい者の方々も自分たちが製造した商品



就労支援施設作業風景(第二なぎの木園(新宮市))



移住された農家の方と
(カワバタファーム(印南町))

が大阪で販売されていることにモチベーションを感じていらっしゃるということをお聞きします。これからも当社がより多くの製造を委託することで施設を利用される方々の働きがいや労働条件の向上に少しでもお役に立つことができればと考えています。

3. 移住者とのコラボレーション

果樹王国として知られている和歌山県ですが、高齢化や人口減少の影響から年々耕作放棄地が増加しております。和歌山県が生産量日本一である「ぶどう山椒」の生産地である有田川町においては、生産農家の平均年齢が80歳に近いということも聞きました。ぶどう山椒に限らず、みかんや梅など和歌山を代表する商品についても生産の担い手が減少し、耕作放棄地増加の一因となっています。

このような耕作放棄地の増加を防ぐためには、生産農家としての新たな担い手を創出する必要があります。そのなかで、和歌山県へのIターンやUターンによる移住者の方々による新規就農が大きな役割を果たしていることを感じました。

移住者の方々が新規就農する際に懸念されることのひとつが「生産したものが販売できるのか」ということがあります。一方で、生産されたものの販路が確保されれば、安心して生産を続けることができ、ひいては移住者の方の定住にもつながるものと考えます。



龍神コッコ販売

こうしたことから、当社では移住者の方がこだわりをもって育てられた生産物を仕入れて「なんばスクエア」で販売しております。これまでに、和歌山の特産品として有名なみかんや桃をはじめ、さつまいもやいちごなどを取扱っていますが、最近では「龍神ココロ」という希少品種である鶏の卵にも出会いました。いずれも移住者の方々がこだわり（栽培時の農薬や除草剤、化学肥料不使用、無添加国産飼料の使用など）をもって生産されたものであり、販売を通じてこうした想いの発信にも努めています。

4. 就労支援施設と移住者の橋渡し

当社では移住者の方々が生産された果樹でそのままでは販売できない規格外（表面が汚れていたり形がくずれているなど）のものなどを加工品の原料としても仕入れており、就労支援施設にお菓子をはじめとする食品への加工を委託しております。

移住されて新たに就農された方々が生産を継続し、ひいては和歌山県に定住してもらうためには「作ったものが売れる」という安心感が重要であります。また、就労支援施設を利用される障がい者の方々も就労機会の増加や労働条件の安定により、働きがいを感じていただけるものと考えています。



図のとおり、当社が「ハブ」となって移住者の方など新規就農者と就労支援施設を繋ぎ、製造された加工品を当社が販売することで、原料を生産された就農者の方や加工品を製造

する施設の皆様の想いを広く発信するほか、「働きがい」や「陸の豊かさ」などSDGsの目標達成にも資することができるのではないかと考えています。

これまでにこのスキームにより新たに商品として誕生した一例をあげておきます。

<さつまいももの加工品>

紀美野町への移住者が生産したさつまいもを使用し、就労支援施設でバウムクーヘン、ポップコーン、フィナンシェを製造

<甘夏の加工品>

日高川町の耕作放棄地になりそうな畑で吉本興業の和歌山県住みます芸人が生産した甘夏の皮、果汁を使用し、就労支援施設でラスク、ジビエのしぐれ煮を製造



さつまいもバウムクーヘン



甘夏を使用したラスク



甘夏を使用したジビエのしぐれ煮

5. 結婚相談所事業への参入

当社は昨年10月より結婚相談所事業をスタートさせました。

単身で移住された方が和歌山でパートナーに出会えば定住につながるのでは、と漠然と考えていたことを機にこの事業に関心を持つこととなりましたが、少子化、人口減少などの課題解決のためにも取組み意義があると感じております。

世の中には、マッチングアプリや婚活パーティー、結婚相談所など様々な婚活サービスがあります。こうした婚活サービスを利用する方の割合は年々増加しており、2020年に結婚された方のうち婚活サービスを利用していた人の割合は16.5%で2000年の1.4%と比べると約12倍となっています（「婚活実態調査2021（リクルートブライダル総研）」）。

結婚相談所は、「出会いのチャンスを広げる」だけではなく、結婚を目的に専任のカウンセラーが交際から婚約、その先の結婚までをサポートするサービスです。入会いただくには独身証明書や収入証明書、卒業証明書などの提出を必須としており、費用もマッチングアプリなどと比べると高くなっています。なので、本気で結婚に取り組む人が多く活動されています。

当社は、登録会員数約86,000人、加盟店数約4,200社を有する株式会社IBJの正規加盟店となっており、会員の方はこのネットワークを活用したお相手探しを行い成婚を目指すこ



結婚相談所（ロカマリアーージュ）ロゴ

ととなります。

当社の会員は現在2名ですが、お見合いから仮交際（結婚を前提とした交際にうつるかどうかを見極める期間）へと活動を進められており、こうした会員の方のサポートを行うことが地域の将来につながるものと自負しながら、カウンセラー業に取り組んでいます。全国のネットワークを活用しますので、結婚によって他府県に移る方もいらっしゃるかもしれませんが、この場合も和歌山と関係する人が増えると捉えることができます。

当社の社名（ロカリスト＝「Local」（地域）と「ist」（人）を組み合わせた造語）には「人と人とのつながりを大切に、地域（Local）に密着した活動を行う人（ist）」という思いも込められています。婚活サービスを利用している人が増加している昨今、人と人とのつながりを創り出すためには結婚相談所は大きな役割を担っているものと考えます。

まだスタートしたばかりの事業ですが、地域にとって非常に有意義な活動であると考えています。ご関心がある方は是非お問い合わせください。

6. 目指すべき姿

会社設立から3年間、地域商社としてどのようなことができるのか、どうすれば地域の方々のお役に立てるのか、ということを意識しながら活動を続けています。

就労支援施設や移住者の方々とのコラボレーションなど現段階で一定の成果も得られているものと考えていますが、一方で耕作放棄地問題など地域の根本的な課題に向き合い、自分たちができることを見出していく必要があると考えています。

「和歌山の魅力を発信する」ことを目的にスタートした会社ですが、和歌山の課題を解決するために知恵を絞り、できることに取り組んでいくことが和歌山の新たな魅力を創り出すことにもつながるものと考え、今後も活動してまいります。